

しまね読進協 50号

発行日 令和5年2月28日

発行所 島根県図書館協会 読書推進運動協議会部会 (松江市内中原町 52 番地 島根県立図書館内)
ホームページ <https://www.library.pref.shimane.lg.jp/toshokankyokai/index.html>

令和四年度 島根県図書館協会の主な事業

◎全国優良読書グループの推薦
波積絵本の読み聞かせの会 (江津市)
↓p1

◎島根県読書推進運動功労者の表彰
今年度は該当無しでした。

◎「この本いいよ!」島根の高校生・高専生おすすめの一冊」投稿の募集
応募数 十校 八十八作品
↓p1

◎読書体験記の募集
応募数十五編 入賞二編
↓p2~3

◎読書普及研修会・講演会
↓p4

◎機関誌の発行・配布
「しまね読進協」第五十号

全国優良読書グループの推薦

当協会から、波積絵本の読み聞かせの会 (江津市) を推薦し、公益社団法人・読書推進運動協議会より表彰されました。

波積絵本の読み聞かせの会は平成八年五月に活動を始めました。活動開始当初は公民館やお寺で、現在は月に二回認定こども園で、読み聞かせをしています。

『本日のメニューは。』 (行成薫 / 著)



(3年 M・A)

展示した17作品を収録した「この本いいよ! リーフレット2022」(PDF)を、webで公開しています。

<https://www.library.pref.shimane.lg.jp/toshokankyokai/konohoniyo.html>



この本いいよ!

島根の高校生・高専生
おすすめの一冊



「この本いいよ!」とは、島根県内の高等学校・高等専門学校および特別支援学校に通う生徒の皆さんに呼びかけて、おすすめの本を紹介コメント付きで募集し、応募作品を公表展示する島根県図書館協会の事業です。
今年度は十校から、計八十八作品の応募がありました。この中から十七作品のコメント及びイラストを紹介された本とともに展示しました。作品を二点紹介します。

『いのちをいただく』

(坂本義喜 / 原案、内田美智子 / 作、魚戸おさむとゆかいななかまたち / 絵)

「みいちゃん、いただきます」この言葉が1番こころに残りました。自分が生まれたころからずっと一緒にいた牛のみいちゃんを、お肉にして食べる。命の大切さがとても伝わってくる絵本だったし、あらためていただきますの言葉がだいじだと知りました。(2年 ピーナッツくん)

読書体験記



県内から読書体験記を募集したところ、応募数は十五編ありました。その中から優秀作品三編を紹介します。

小さな手で開ける扉

清水 京香 (出雲商業高等学校)

私には鮮明に覚えている小学一年生の時の思い出があります。当時私は極度の人見知りで、昼休みは遊ぶ人も遊ぶことも見つからず好きではありませんでした。次の掃除のために机が後ろにさげられた教室の窓側で私にとってドキドキの瞬間が起こりました。同じクラスの女の子に「図書室行こう」と誘われたのです。私はとても緊張して、小さい声で返事をしました。何分にも感じられたその一瞬に、私にとって小学校で初めての友達ができ、そして、図書室との生活が静かにスタートしました。しかし次の一歩がなかなか踏み出せませんでした。借りた本を返すだけなのに知らない人があふれかえっているその場所に入ることはこれまで越えなかったことがないハードルでした。私は勇気を出して最初のお友達に今度は私から誘いました。そこからほとんど図書室に慣れていき、行く度に見る景色が明るくなっていきました。怖さや緊張がゆっくり楽しき、うれしさに変わっていったのだと思います。図書室に足を踏み入れ、向かう本棚が学年が上がるにつれて違う所になっていると実感すると、ちょっとした喜びを

感じます。それは読むことができる本が増えたということを表しているからです。そしてこれからも私は苦手と思っている本も克服して、多種多様な本と関わっていかうと思えます。

そんな本と過ごす日々の中で、本は普通に生活しているだけでは生まれてこない気持ちや経験を言葉にのせて心まで届けてくれました。人見知りの私は実際に行動することは苦手で、行動して知れることや気持ちを伝えることは必然的にできませんでした。本を読むことで読んでいるだけなのにたくさん出来事に会った気持ちになります。その時間は幸せで、次のページ、次のページと手が止まりません。頭の中で文章から情景が作り出され映画を見ている感覚になります。私は物語が大好きで、「この後どうなったのだろう」「私もこの人みたいになれるように頑張ろう」と、読み終わった後も思いを巡らせます。

高校入学前、私のかばんにはいつも本が入っていて、一緒に学校生活を送っていました。高校入学し、部活におわれる日々を送ることとなり読書をする時間がとれない今、本と過ごす時間が離れていっています。まれにある休日に、図書館や書店に寄ると、連日図書室に通っていた小中学生の頃の気持ちがいとおこされます。あのワクワク感はいつになっても消えることはありません。

何年も共に過ごした図書館は読みたい本がすぐ読めて新しい本とも出会える場所です。私は本当に恵まれています。世界には数えきれないほどの物語が生まれていて、私がかこれまで読んだ物語との出会い、過ごした時間は奇跡です。これからも私には

たくさんのお話が待っています。私の心は弾んでどこかに飛んでいきそうです。

審査員コメント：図書室との出会いや書棚が変わっていくことから投稿者の成長、読書の世界が広がっていくことを実感された表現など上手に表現されていると感じました。

新しい読書の楽しみ方

西村 幸夏 (松江南高等学校)

私の家族は読書が好きで、幼い頃から絵本や本に囲まれて育ちました。毎晩、母に読み聞かせしてもらいのが楽しみでした。字が読めるようになるまで本屋や図書館に通い、時間さえあれば本を読んでいた。

たくさん本を読んできましたが、自分が読んできた本を友達に紹介することはなく、自分の中で完結していました。それが、高校に入学して図書館に貼られていたポスターを見て、ピブリオバトルという知的書評合戦を知り、自分の好きな本を紹介しようということに興味を持ち、挑戦することを決めました。

ピブリオバトルは誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームで、バトルが五分間で本を紹介して三分間の質疑応答の後、最後にどの本が一番読みたくなったかを基準にバトルと聴衆が投票してチャンプ本を決めるものです。

私はたくさんある愛読書の中からどの本を紹介するのか悩んだ末、紹介する本を一冊に決めて、五分

間で面白さを伝える練習を重ねました。初めて読んだときに感じた面白さをどう伝えようか、何を伝えようかと考えながら改めてその本を読み直すと、新たな面白さを発見しました。

大会に出る前に、実際に先生と図書委員長の先輩に聞いてもらいました。五分間も話し続けることができるのだろうかと不安でしたが、やり始めるともっと話したい、伝えたいことがたくさん出てきて、五分間は意外と短かったです。

そして迎えた全国高等学校ピリオパトル島根県大会当日。私は発表順を決めるくじで一番を引いてしまい、初めはとても緊張していましたが、会場にいた先生や図書委員長、再会した中学時代の部活の先輩が熱心につなずいて聞いてくれたので、落ち着いて会場の聴衆全体に視線を配りながら私の好きな本の良さを伝えることが出来ました。他のパトラーの人たちの発表も本のジャンルや紹介の仕方は違いますが、本への愛の強さが伝わる発表で、とてもわくわくしました。結果は残念でしたが、チャンプ本は私がよんでみたいと投票した本でした。

本の紹介をすることは自分の心の中を曝け出している気がして恥ずかしいのですが、ピリオパトルを通してお互いの好きな本の面白さを共有することはとても楽しいと気づくことが出来ました。

今年も、ピリオパトルに参加します。どの本をどんな風に紹介しようか考えるだけでわくわくしてきます。そして同じ高校生パトラーがどんな発表をするのか、大会が待ち遠しいです。

審査員コメント：自分の殻を破って、新たなチャレンジに心躍らせる様子が伝わりました。

古典を楽しむ会

岩本 良子（出雲市）

八十五歳の夫が二ヶ月前一夜にして亡くなった。前日まで机に向かってパソコンを動かしていたのだが。

二十五年前、夫は高校の国語の教師を定年退職すると地域の人達と一緒に楽しみながら古典の勉強をしていきたいと言った。夫の思いである「古典を楽しむ会」をふたりで作った。

勉強会の場所は公共の文化施設を借りた。資料は自分の勉強と考えていたので、夫の手作りである。夫はパソコンに関して、興味を持っていたので、カラーの絵を入れたり、写真を入れたりして楽しんで作っていた。高齢になると字を大きくした方が読みやすいからと、字を大きくして印刷し毎回皆に配った。

勉強会では、参加者全員でそれを見ながら朗読し、その後、講師である夫が意味をいって説明をした。

最初のうちは少なかった参加者も少しずつ増えていった。

月に二回、学んできた古典である。

一、徒然草 吉田兼好

二、枕草子 清少納言

三、更級日記 菅原孝標の娘

四、土佐日記 紀貫之

五、宇治拾遺物語 作者不詳

六、奥の細道 芭蕉

七、義経記 不詳

八、御伽草子集

九、雨月物語 上田秋成

十、方丈記 鴨長明

これらは二〇〇〇年から二〇〇九年の間であり、二〇〇九年から現在進行中の書物は、十一、源氏物語 紫式部 である。

参加者の中には八十五歳のおばあちゃんも来られ、雨の日も風の日も雪の寒い日も来られ、全員で朗読する時は虫めがねで字を追って一所懸命に読んでおられた。

「もっとむずかしく考えていたのに、古典の世界に抱いていたイメージがかわり、出かけるのが楽しみです。」

「声を出して皆と一緒に読むので、とても気持ちがいいです。」
という参加者の声を聞くと、夫の気持で始めたこの勉強会の手伝いができつくづくよかったと思う。

が、夫の突然の死で、この会の存続を心配したけれど、会員の皆様の強い願いで続けることとなった。会員の中に指導して下さる方がおられ、休まず前に進んでいる。夫の古典への思いを続けて下さり、本当によかった。なによりも古典の世界に私を誘ってくれた夫に感謝。感謝。一本供えます。

審査員コメント：亡き夫に対する深い愛情と、古典を通しての人との繋がりが感じられ、胸が熱くなりました。

令和4年度

島根県内の読書普及の主な取り組み

子どもの読書週間

毎年、「子どもの読書の日」から「子どもの日」を挟んだ二十日間（四月二十三日～五月十二日）は、公益社団法人日本読書推進運動協議会が主催する「子どもの読書週間」です。この期間中は、図書館や公民館、学校などで、子どもの読書に関するイベントが開催されます。

多くの図書館で、絵本・児童書の展示や、本のセット貸出が行われました。ほかには、「つめようーかりようーよんでみようー」（くじ引きで当たったカゴに借りたい本を詰められるだけ詰めてもらい貸し出す。当たったカゴはプレゼント。江津市）や、「工作教室『親子でDIYにチャレンジ』」（ブックスタンドを使った小物入れづくり。飯南町）、など特徴ある活動も行われました。

読書週間

毎年、文化の日の前後二週間（十月二十七日～十一月九日）は「読書週間」です。この期間中、全国の図書館など、読書に関する施設では、市民の読書を応援する取り組みが行われます。

当協会は、期間中に、高校生のおすすめ本を島根県立図書館内で展示したり、読書体験記の募集を行って、読書活動の普及に努めました。

各市町村の図書館では、図書館まつり、おはなし会、本のリサイクル、展示などのイベントが開催されました。

ほかにも、「木次・加茂・大東三館合同資料展

示「きょうの一冊」（図書館Leadsbooksに掲載している職員のおすすめ本紹介記事をまとめ、ブックレットとして作成、本とともに紹介し展示。雲南市）、「読書会」の一冊にありがとう（中学生・高校生が、持ち寄った本の魅力を語り合い、最後にブックコート掛けを体験する。しまね子ども読書フェスティバルin飯南 実行委員会）、「図書館クイズにチャレンジ」（町の産業文化祭に併せて実施。初級・中級・上級のクイズを用意し、本を使って問題に答えてもらう。海士町）など、ユニークな活動が行われました。

全国高等学校ビブリオバトル2022 島根県大会

ビブリオバトルとは、オススメの本を紹介し合っ、チャンプ本（一番読みたくなった本）を決定する「知的書評合戦」です。

令和四年十二月十日に、島根県立男女共同参画センターあすてらす（大田市）で、「全国高等学校ビブリオバトル2022島根県大会」が開催されました。（主催：全国高等学校ビブリオバトル2022島根県大会実行委員会）

今年度の大会には、十名の高校生の発表者（バトル）の他、運営サポーター、バトル引率者、保護者、観覧者、実行委員など合計八十二名が参加しました。

熱い戦いが繰り広げられ、松江工業高等学校二年の木村優成さんが紹介した『本屋さんのダイアナ』（柚木麻子著（新潮社））がチャンプ本に決定しました。

【令和4年度読書普及研修会・講演会】のお知らせ

津和野出身の文豪・森鷗外を中心に、明治の文学と挿絵の世界にふれてみませんか。

- 対象：図書館関係者、学校、教育関係者、県民
- 日時：令和5年3月22日（水）13時～15時
- 会場：浜田合同庁舎 大会議室 ※サテライト会場（ライブ配信先）隠岐の島町図書館、県立図書館
- 演題：「森鷗外「文づかひ」挿絵の謎—なぜ主人公の顔は鷗外に似ているのか？」
- 講師：出口智之氏（東京大学大学院 総合文化研究科 准教授）
- 参加費：無料（要申込） ※お近くの図書館でチラシ・申込書を配布します。
- 申込方法：FAXまたはメール（チラシの裏面の申込書による）
- 問合せ先：島根県立図書館 地域支援係 0852-22-5730

島根県図書館協会

<https://www.library.pref.shimane.lg.jp/toshokankyokai/index.html>

島根県内の公共図書館等、大学・高等専門学校図書館、学校図書館及び書店など読書団体の連絡・連携のもとに、図書館事業の振興と読書の普及及び文化の向上を目指して、島根県図書館協会を組織しています。